

令和3年度 公衆浴場における衛生管理講習会

施設のレジオネラ対策

①レジオネラ症とは

東京都多摩府中保健所

生活環境安全課

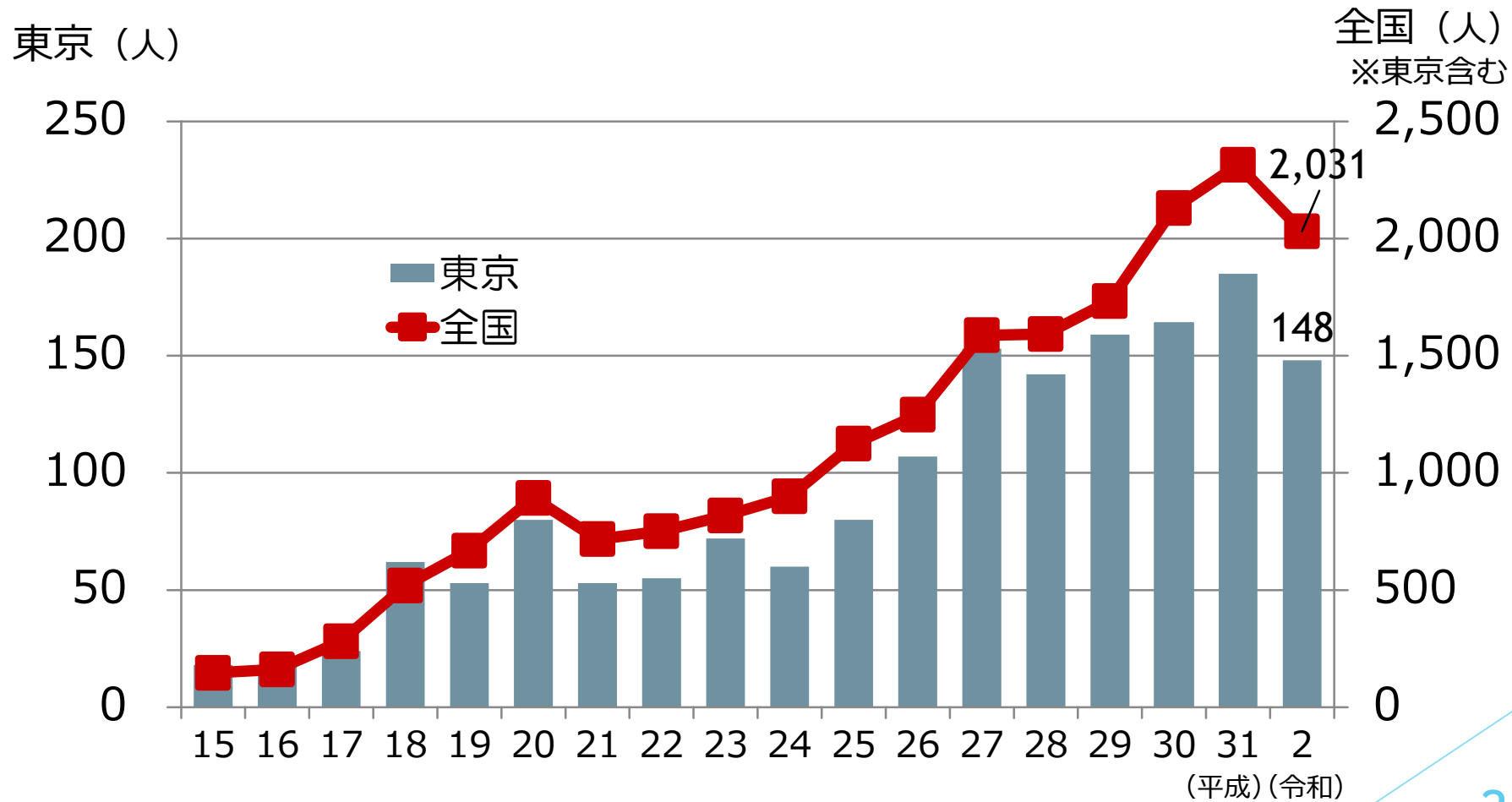
環境衛生担当

レジオネラ症とは

- ▶ レジオネラ・ニューモフィラを代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症
- ▶ 細菌が肺に入り込むことで起きる病気
- ▶ 入浴施設など水を利用する設備があるところを発生源とした感染事例が多い
- ▶ 高齢者や免疫力が低下した人、乳幼児、喫煙者、飲酒者が感染しやすい
- ▶ 死亡者も発生
- ▶ 人から人へ感染することはない
- ▶ 公衆浴場・旅館業の入浴設備・温水プールは、レジオネラ属菌が繁殖しやすい条件を備えている

⇒施設利用者のレジオネラ症感染を防止するため、対策が必要！！

レジオネラ症患者届出件数



レジオネラ症の症状

▶ レジオネラ肺炎（肺炎型）

- 主な症状 高熱、全身倦怠感、頭痛、咳、吐き気、下痢、呼吸困難、意識障害 など
- 潜伏期間 2日～10日
- 特徴 急激に重症化し、死亡することもある

▶ ポンティアック熱（非肺炎型）

- 主な症状 突然の発熱、悪寒、筋肉痛 など
- 潜伏期間 1日～2日
- 特徴 一般に軽症であり、数日で治癒する

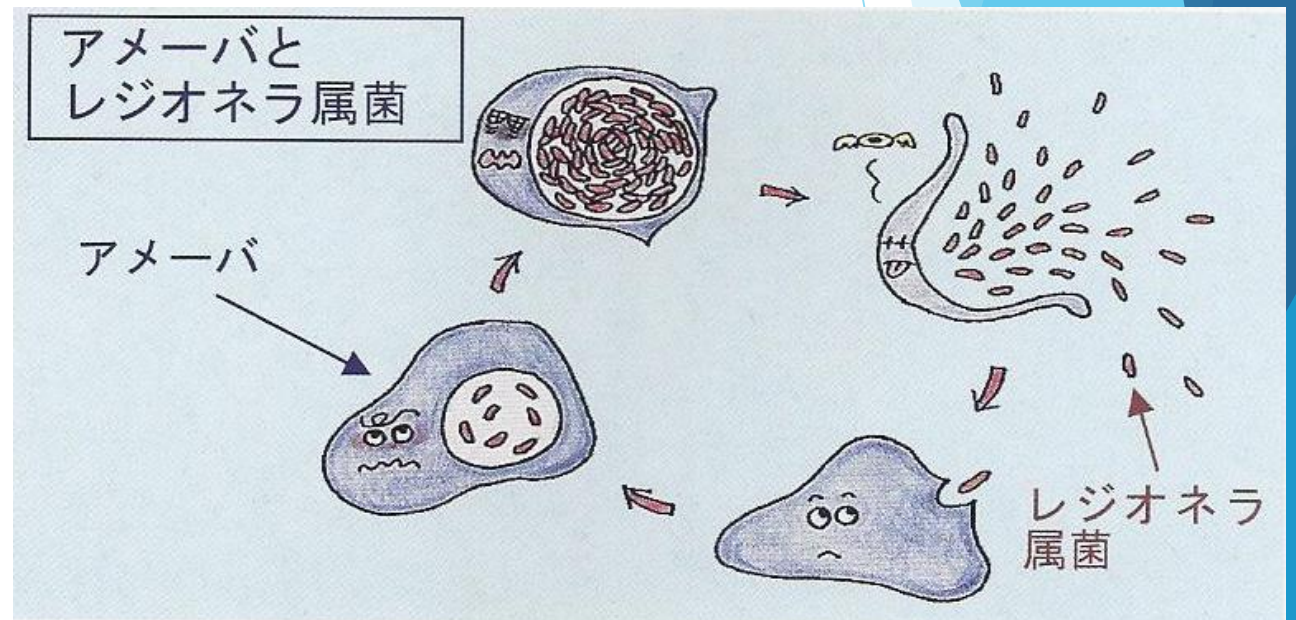
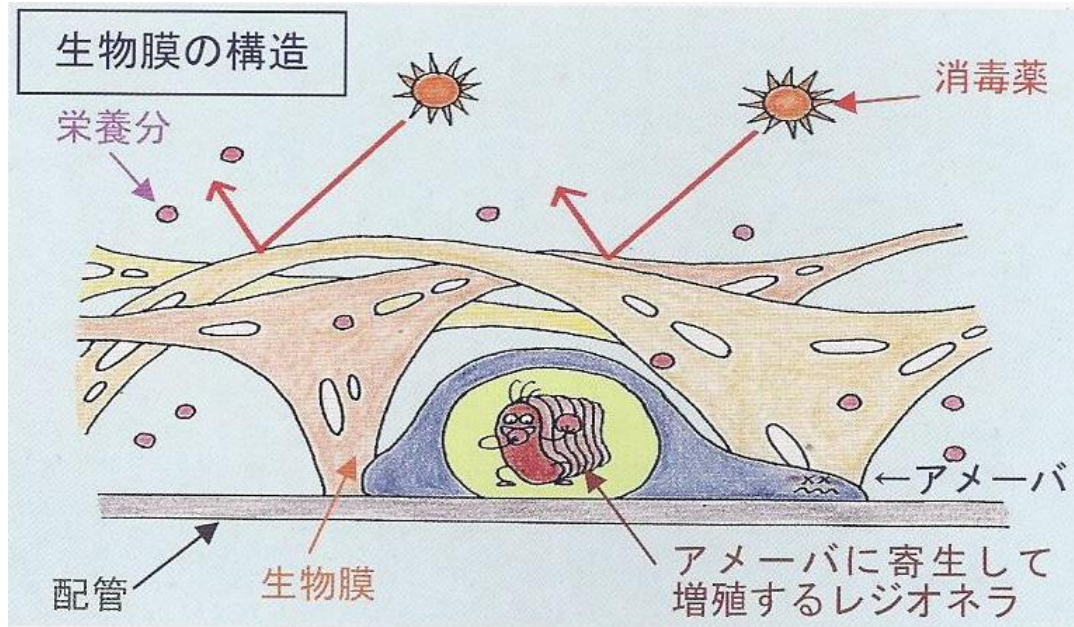
浴槽や温水プールでは レジオネラ属菌が繁殖しやすい

▶ 生物膜ができやすい環境

- ・レジオネラ属菌 36℃前後が増殖に適している
- ・浴槽水やプール水
消毒や清掃が不十分な場合、壁面や配管などに「ぬめり」 = 「生物膜」
「バイオフィルム」
- ・浴槽や温水プールの水は温かく、入浴者のアカなどの有機物（栄養分）が豊富
⇒ 壁面やろ過器の内部、配管等に微生物が繁殖し、生物膜を形成

浴槽や温水プールでは レジオネラ属菌が繁殖しやすい

▶ レジオネラ属菌が繁殖する場所は生物膜内



レジオネラ症発生防止対策 3原則

1 菌を増やさない

- ◆ 栄養源の除去と消毒により増殖させない
- ◆ 浴槽水やプール水の換水及び消毒の徹底

2 生物膜をつけない

- ◆ 生物膜を浴槽・プール・循環系統に付着させない
- ◆ 浴槽やプールの配管、ろ過器の洗浄及び消毒の徹底

3 エアロゾルを吸い込ませない

- ◆ エアロゾルの発生を防ぎ、入浴者へ吸い込ませない
- ◆ レジオネラ属菌の生息の可能性がある浴槽水等を、打たせ湯やシャワー等のエアロゾルの発生しやすい設備に再利用しない